

介護実習の基本方針

目的

学内で修得した介護福祉の専門的知識・技術・態度を統合し、実際に施設や地域の現場で応用して、利用者の個性を重視した総合的な日常生活の援助が出来る能力を養う。

目標

1. 利用者の生活場面から介護福祉士の役割・機能体系を学ぶ。
2. 利用者が求めている生活ニーズについて理解し、判断することができる。
3. 学内の介護技術・演習で学習した知識と技術を実践する。
4. 心身機能の障害に対応した生活環境の改善と福祉機器の活用について学ぶ。
5. 在宅生活と施設サービスの連携について、チームの役割を学ぶ。
6. 実習を通して、理論と実践の統合による介護の専門性を探求していく態度と基礎能力を養う。

実習の基本概要

介護実習は、9単位（461時間）を必修とし、次の過程によって行う。

1. 第Ⅰ段階実習

1) 実習 I-A

- ・ 単位数 : 時間数 : 1単位（48時間）
- ・ 実習時期 : 1年次
- ・ 実習施設 : 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

2) 実習 I-B

- ・ 単位数 : 時間数 : 1単位（40時間）
- ・ 実習時期 : 2年次
- ・ 実習施設 : デイサービスセンター、訪問介護事業所、障害者支援施設（身体・知的）、小規模多機能型居宅介護事業所など

2. 第Ⅱ段階実習

1) 実習 II-A

- ・ 単位数 : 時間数 : 2単位（112時間）
- ・ 実習時期 : 1年次
- ・ 実習施設 : 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設（身体・知的）、障害児支援施設など

2) 実習 II-B

- ・ 単位数 : 時間数 : 2単位（112時間）
- ・ 実習時期 : 2年次
- ・ 実習施設 : 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設（身体・知的）、障害児支援施設など

3) 実習 II-C

- ・ 単位数 : 時間数 : 3単位（144時間）
- ・ 実習時期 : 2年次
- ・ 実習施設 : 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設（身体・知的）、障害児支援施設など

※ 実習準備 : 介護実習前後の準備教育は「介護実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」として各段階30時間ずつ、合計120時間を配当する。

「介護実習」と履修科目との関連

年次	学期	月	実習の展開	専門科目の展開	
				1年前期	1年後期
1年次	前期	4		介護の基本（通年） 介護過程Ⅰ 医療的ケアⅠ（通年） 人間の尊厳と自立 社会の理解 心理学概論 コミュニケーション技術Ⅰ 生活支援技術Ⅰb 介護総合演習Ⅰ 介護総合演習Ⅱ ことごとからだのしくみⅠ 介護実習ⅠA 介護実習ⅡA 情報リテラシーⅠ 法学概論	介護の基本Ⅱa 発達と老化の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅰ 介護過程Ⅱ 発達と老化の理解Ⅱ コミュニケーション技術Ⅱ 生活支援技術Ⅰc ことごとからだのしくみⅡa 介護実習ⅠB 介護総合演習Ⅲ キリスト教と世界観 生活支援技術Ⅰa
		5			
		6			
		7			
		8	実習Ⅰ-A (48時間)		
		9	実習Ⅱ-A (112時間)		
	後期	10			
		11			
		12			
		1			
		2			
		3	実習Ⅰ-B (48時間)		
		4			
2年次	前期	4		2年前期 医療的ケアⅡ（通年） 障害の理解Ⅰ 社会の理解Ⅱ 介護の基本Ⅱb 生活支援技術Ⅱa 生活支援技術Ⅱb 介護過程Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護実習ⅡB 介護実習ⅡC ことごとからだのしくみⅡb ことごとからだのしくみⅡc	2年後期 介護の基本Ⅱc 生活支援技術Ⅱc 生活支援技術Ⅲ 認知症の理解Ⅱ 障害の理解Ⅱ 介護福祉総論Ⅰ 介護福祉総論Ⅱ マネジメント概論
		5			
		6			
		7			
		8	実習Ⅱ-B (112時間)		
		9	実習Ⅱ-C (144時間)		
	後期	10			
		11			
		12			
		1			
		2			
		3			
		4			